

授業改善プラン

教科（ 社 会 ）

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。改善策として ICT の活用を導入するものは**太字**

	観 点	1 学期	2 学期		3 学期	小中一貫の 取組
		今年度の取組 昨年度の課題から	分析	具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて	
1 年 生	知識・技能	知識の確実な定着に向けて、毎時間最後に小テストを実施する。	定期考査において、この観点の問題の正答率は比較的高くなった。	引き続き、小テストの実施を継続し、確実に知識技能が定着するようにする。		
	思考力・判断力 表現力	プリントに文章記述欄を設け、物事の流れなどを説明できるようにする。	定期考査において、この観点の問題の正答率はさほど高くなかったが、空欄にしてしまう生徒はほとんど見られなかった。	引き続きプリント作成の際には自分の言葉で何かを説明する機会を多く設け、文章での記述に主体的に取り組めるようにする。		
	主体的に学習に 取り組む態度	毎時間ロイロノートを活用し、本時の学習課題について主体的にまとめる。	アンケートにて、「授業によって興味や関心がわき、自ら学びたいと感じた。」とした生徒が68%と、やや低めになった。	ロイロノート を活用した取り組みを継続するとともに、身近な存在とのつながりを意識して授業を行う。		
2 年 生	知識・技能	知識の定着に向けて、小テストの実施やアダプティブ教材を活用していく。	アンケートにて、「授業後に小テストで学習内容を復習でき、定着しやすい」との回答をいくつか得た。	小テストを引き続き実施し、各単元の基本的内容を確実に定着させていく。		
	思考力・判断力 表現力	資料を適切なタイミングで提示し、必要な情報を読み取れるようにする。	定期考査において、文章記述問題の正答率が、他の観点の問題よりも比較的低かった。	特に資料からどんな情報が読み取れるか、自分の言葉で説明できるようにする。		
	主体的に学習に 取り組む態度	身近な話題から授業の導入を行い、興味関心が広がるようにする。	アンケートにて、「授業によって興味や関心がわき、自ら学びたいと感じた。」とした生徒が69%と、やや低めになった。	身近な話題や事象をより積極的に取り入れ、興味関心を引き出す。		
3	知識・技能	前時の内容の確認を短時間行うことで、基礎知識の定着を図る。	前時の内容の確認に加え、小テストを最後に毎時間行うことで、定期考査におけるこの観点の正答率は上がった。	引き続き前時の復習と最後の小テストを継続して行っていく。		

授業改善プラン

教科（ 社 会 ）

	<p>思考力・判断力 表現力</p>	<p>資料の着目点を具体的に示すことで、必要な情報を読み取れるようにする。</p>	<p>歴史の単元の定期考査において、資料から情報を取り出す問題の正答率がやや低めだった。</p>	<p>授業で、資料の紹介の際に情報を読み取るポイントについて重点的に説明する。</p>		
	<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>授業の導入では自分の生活と関連させた内容から始めていく。</p>	<p>アンケートにて、「授業によって興味や関心がわき、自ら学びたいと感じた。」とした生徒が非常に少なかった。</p>	<p>身近な話題や事象をより積極的に取り入れ、興味関心を引き出す。</p>		

カリキュラムマネジメントの視点から

国語や理科と重複した内容を扱う機会も多いので、各教科の授業の進捗状況を確認しながら、横断的な指導を進めていく。